

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	頭部外傷後転帰と関連因子の研究
研究期間	2019年4月4日～2026年12月31日
対象患者	当院に入院した頭部外傷患者さん
対象期間	1999年1月1日～2025年12月31日
研究機関の名称	島根県立中央病院 ※解析、論文作成には島根大学脳神経外科も参加します。
研究責任者	脳神経外科 井川 房夫
意義・目的	我が国は人類が経験したことのない速さで高齢化が進み、高齢化に伴う認知症、フレイル（年齢を重ねたことで生じやすい衰え全般）、介護などが問題となっています。一方、出雲市は日本の中でも高齢化が進み今後の日本の縮図といえます。出雲市の高齢者を含む全年齢層の頭部外傷の特徴と高次脳機能障害（病気や事故等による脳の損傷により言語や記憶、注意、情緒といった認知機能に起こる障害）の問題点等を検討し、日本の将来へ備え、早期対策をとることは重要であると考えます。 そこで本研究では、交通外傷を含む全年齢層の頭部外傷の頻度、画像診断、転帰、入院後神経症状悪化、高次脳機能障害の程度をデータベース化し明らかにします。次に、転帰、高次脳機能障害、認知症の頻度とハビリテーションの効果、長期フォローによる転帰を検討し、転帰に与える関連因子を調査しその対策をとることを目的とします。
研究の方法 （試料・情報の利用 方法・他施設への提 供方法を含む）	電子カルテ等を利用して、「利用する試料・情報の項目」に示す項目を抽出します。次に、年齢を65歳未満、65-74歳、75歳以上に分類し、以下について調査及び統計学的検討を行います。 ・軽傷・中等症頭部外傷と高次脳機能障害との因果関係を検討し、危険因子を分析します。 ・頭部外傷患者の転帰や、長期フォローアップ結果における危険因子について、退院後6か月後、1年後、3年後転帰等を電子カルテ、一部電話調査で確認し、転帰増悪の危険因子を分析します。
利用する試料・情報の項目	入院時年齢、性別、頭部外傷受傷日、入院日、内服薬、入院時 Japan coma scale (JCS) ※1、Grasgaw coma scale (GCS) ※1、採血所見、入院時 CT、経過中 CT, MRI 所見、入院翌日、7-9 日目の神経所見、退院時転帰、退院時 mRS（脳卒中患者さんに対して主に機能自立度を評価する指標）、6か月後 mRS、既往症、家族環境、外傷契機、合併症、合併外傷、血液データ、投与薬物、高次脳機能検査所見、リハビリテーション（期間、効果、終了時所見）、退院後介護保険利用状況 等 ※1：意識レベルの評価法
試料・情報の提供の有無	試料・情報の他施設への提供 <input checked="" type="checkbox"/> あり・なし （ありの場合、海外の施設への提供 <input type="checkbox"/> あり・なし）
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。

結果の公表	投稿論文として公表予定です。
備考	

***** お問い合わせ先 *****

島根県立中央病院

脳神経外科 井川 房夫

電話：0853 - 22 - 5111
